

公募・審査については、各委員から意見をいただき、今後、ワーキング・グループを設置して検討。

## 「グローバルCOEプログラム」の公募・審査について

- 「21世紀COEプログラム」の公募要領・審査要項を踏まえつつ、より水準の高い教育研究拠点の形成に向けた公募・審査の在り方を検討する。
- 公募について
  - ・ 「21世紀COEプログラム」との継続性を踏まえ、19年度の公募は、生命科学、化学・材料科学、情報・電気・電子、人文科学、学際・複合・新領域の5分野。
  - ・ 現行のCOE拠点も含め、新たに公募を実施。
  - ・ 拠点形成を目指す事業であることから、基本的には単独の大学での取組とするが、他大学等と連携した取組も対象。  
→ ※国内外の研究機関との連携の在り方についてどう考えるか。
  - ・ 卓越した拠点の形成に向け、支援の充実を図るとともに、分野の特性に応じた支援が可能となるよう支援規模は柔軟に設定。

	21世紀COEプログラム	グローバルCOEプログラム
採択予定 件数	10～30拠点（分野毎） （H14～16の3年間で274拠点を採 択）	10～15拠点（分野毎） （今後、5年間で150拠点を採 択する予定）
申請額	1億～5億円程度（H14、15） 1千万～5億円程度（H16）	5千万～5億円程度

- 審査手順の考え方・手法等について  
（参考：21世紀COEプログラムの例）

- ① 部会委員による個別書面審査を実施、その際レフェリー（2～3名）の事前評価を参考
- ② 個別審査結果を基に、部会において合議審査の上、ヒアリング実施拠点を選定
- ③ 部会委員全員でヒアリングを実施し、その結果を踏まえ、合議審査により、採択拠点を決定

→ ※レフェリー評価の取扱(参考とする)及び構成、その他審査手順は、原則これまでと同様でよいか

※特に、外国人レフェリーの評価の範囲(計画全体又は研究活動面のみを対象とするか)、実施する分野(全ての分野で実施可能か)、方法をどうするか

○ 審査の基準、着目点について  
(参考：21世紀 COE プログラムの例)

【審査の着目点】

(1) 研究教育活動の実績

- ① 研究教育活動が、当該分野において、世界的な水準から見て優れたものであるか。
- ② 研究教育活動が、当該将来構想、特に拠点形成計画を遂行するに当たって必要なポテンシャルを示すものであるか。
- ③ 研究教育活動の現状は、必ずしも十分とは言えないが、将来、世界最高水準になりうるものか。

(2) 将来構想及び拠点形成計画

- ① 学長を中心としたマネジメント体制の下、世界最高水準の拠点形成への重点的取り組みが予定されているものであるか。
- ② 拠点形成計画の内容が、世界最高水準を目指すものであるか。
- ③ 拠点形成計画が、着実かつ現実的であり、拠点として活性化が図られるものであるか。
- ④ 若手研究者が、独立してその能力を十分に発揮できるような拠点形成となっているか。
- ⑤ 研究を通じた教育により、学生が将来、有為な人材として活躍できるよう必要な体制が計画されているか。
- ⑥ 特色ある学問分野の開拓を通じて独創的、画期的な成果が期待できるか。
- ⑦ 大学全体の将来構想において、拠点形成計画が十分戦略的なものとして位置付けられているか。

→ ※審査の基準、着目点の具体化にあたり、以下の点についてどのようにするか。

- ・ 人材育成面、研究活動面、運営マネジメント面に細分化し、評価することの必要性
- ・ 国際的水準等に適合したより具体的な審査基準
- ・ 21世紀 COE プログラムのこれまでの実績の取扱い
- ・ 複数の大学等による連携した取組の場合の有効性
- ・ 特色に応じたオンリーワンの教育研究活動の評価
- ・ 大学院生、若手研究者の育成・支援に関する実績と計画
- ・ 大学全体としての将来計画と拠点形成に対する組織的支援
- ・ 必要な定量的指標（論文発表数、学位授与率、外国人教員数など）
- ・ 拠点形成の必須要件か、選択的要件かを示すことの必要性